

練馬区国際交流・多文化共生に関する連絡会準備会 会議要録

- 1 開催日時 平成 29 年 3 月 8 日（水）午後 1 時 30 分～3 時
- 2 場所 練馬区立文化交流ひろば 交流室 1
- 3 参加者 ボランティア日本語教室等 33 名、地域振興課長、国際・都市交流課長
- 4 事務局 2 名
- 5 内容および配布資料
 - (1) 練馬区の事業について
 - (2) 各参加団体から
 - (3) 今後の連絡会について

<配布資料>

 - 資料 1 練馬区における多文化共生推進事業
 - 資料 2 練馬区における多文化共生推進事業（29 年度予定）
 - 資料 3 連絡会について

6 発言内容（要旨）

（地域振興課長（オリンピック・パラリンピック担当課長兼務））挨拶

（国際・都市交流課長）挨拶

（事務局）

資料 1 練馬区における多文化共生推進事業 に基づき、内容について説明。

（参加団体）

ボランティア養成講座については 29 年度以降についても水曜日で固定されるのか。
また、すでに教室で少し活動したことのある方で、さらに勉強したい場合に講座に参加することは可能か。

（事務局）

講師との打ち合わせ、他の事業との兼ね合いで日程を調整しているが、まだ 29 年度の日程については決定していない。

すでに活動している方でさらに勉強したい方がいる場合には聴講生として講座に参加が可能。そのような方がいる場合には、各教室と個別に相談する。

(参加団体)

文化交流ひろばの情報コーナーでは、趣味の会などの案内もしてくれるのか。

(事務局)

そのような団体について、多言語での案内が可能。区役所の外国相談窓口でも対応可。

(参加団体)

外国語情報誌はボランティア日本語教室に配布してくれないのか。現在の発行部数と送付先は。

(事務局)

登録している方に郵送している。現在は、各教室に別の送付物がある際に情報誌も同封している。毎号の発送を希望するのであれば、事前に部数の申出があれば対応できる。発行部数は、言語により 100 から 200 部。

(参加団体)

外国人の方がボランティアをしたい場合に、定期的にやっているボランティア活動(英語でお話会のようなもの)を紹介してもらえるか。

(事務局)

現在地域振興課で紹介できるのは、通訳ボランティアと日本語講師ボランティアのみ。28年度内に南田中図書館で行うお話会については、外国語相談員に依頼しているところである。

(参加団体)

現在ボランティア日本語教室は人手不足が深刻。ボランティア養成講座の参加人数を20人以上に増やしてもらえないのか。

(事務局)

現在の講座内容では、20人が限度。少ない講師の人数でかなり細かく指導するため。また、毎年夏ごろ、必要人員数の調査を各教室に行っているところだが、だいたい各教室が必要とする人員の合計は20人くらいとなっている。しかし、ボランティアが不足しているという声をいただいていることは確かなので、日本語講師ボランティアをさらに活用できればと考えているところ。夏の区報で呼びかけをした。

(参加団体)

ボランティアの数を増やすために養成講座の回数を増やすなど、何か方法を考えてほしい。

(事務局)

すぐに対応策を示すのは難しいが、今後具体的な案を示していければと考えている。

(参加団体)

日本語講師ボランティアの登録数は。

(事務局)

180名ほど。ただし、この登録制度は平成18年からのものなので、今年度名簿の更新作業をしているところ。更新をしたうえで、活動可能な方と教室をつなげる予定。

(事務局)

資料2 練馬区における多文化共生推進事業（29年度予定）に基づき、内容について説明。

資料3 連絡会について に基づき、内容について説明。

(参加団体)

創立120周年で、当初は青年を訓練する団体だった。現在は幼稚園の運営、南米などの日系2世、3世の留学生の受け入れを行っている。短期の留学生への日本語学習に困難を感じている。外国籍住民が増え多様化する練馬での問題点をこの連絡会で話し合い情報を共有して、外国人住民にとって住みやすい練馬とするための一助になれば良いと考えている。

(参加団体)

練馬区の事業の紹介を聞いて、スクールの生徒が力を貸せるものがいくつかあると感じた。今後何か手伝うことができればと思う。

(参加団体)

開発途上国（約40か国）の支援活動をしている。最近ではシリアや南スーダンの難民問題に取り組んでいる。支援活動をする中で、日本社会が多様化を受け入れ、多文化共生社会を実現し、日本人の心が変わらないと、世界は変わらないと感じている。そんな中、今回地元である練馬区で多文化共生に関する連絡会があるとのことで、参加させていた

だいた。

(参加団体)

外国語相談窓口では、日本語学習に関する相談が多い。その際には、ほとんどボランティア日本語教室を紹介させていただいている。

(参加団体)

外国語を使用して仕事をしていた関係で、光が丘の文化交流ひろばとインターナショナルスクールと関係を持たせていただいて、多文化交流に関する仕事をさせていただいている。頭の中で考えるだけでなく、地域と交わり、体を動かしながら、区内在住外国人の力になっていければと考えている。

(参加団体)

こども日本語教室は毎週生徒の人数が増えていて、特に中学生の増加が顕著。受験を控えた中学生への対応が課題となっている。子供は、日常会話は学校生活の中ですぐに習得するが、教科学習となるとなかなかついていけず、何年日本で生活しても困難があるというところが特徴。ボランティア日本語教室の中で、土曜日の午前中時間がある方がいる場合には、ご協力のほど検討いただきたい。

(参加団体)

当教室は、大人クラスと子供クラスがある。子供クラスには50～60人ほど在籍。受験を控えた中学3年生を重点的に指導すると、他の学年が手薄になってしまうという課題がある。区主催のこども日本語教室と同じような課題を抱えている。

(参加団体)

区民センターで活動している。約50名が在籍。光が丘は高学歴な外国人が多く、日本語が上達する方が多いことが特徴。しかし、日本語を使う機会が無い、と言っている生徒が多いので、何か日本人と外国人が関わることのできる機会が欲しい。

(参加団体)

スタッフ12名、生徒28名で活動。保育室が無いので、子連れの生徒にどう対応するかということが悩み。

(参加団体)

学習者の人数に波があることがボランティア日本語教室の難しいところだと考えてい

る。ボランティアスタッフには、教室の活動日は必ず時間を空けて、教室に必ず来るという気持ちが重要。養成講座の人数を増やせば、そのようなボランティアが増えるのではと考えている。

(参加団体)

区役所で土曜日の午前中に活動している。土曜日の午前中はボランティアスタッフにとっては家族などのことで都合が悪く活動しにくい、生徒にとっては通いやすい。ボランティアが少なく、他の教室のボランティアスタッフに助けていただいた。

(参加団体)

小学校で、水曜日に活動している。スタッフは11人で、マンツーマンで指導。養成講座を受けていない人に、スタッフとして活動していただいても良いと考えている。講座の抽選を外れた方に、ボランティア日本語教室を紹介するのはどうか。

(参加団体)

数少ない夜間に活動している教室。生徒は、昼間働いていたり学校に通っている人が多い、出席にばらつきがでている。会員数は39名。ボランティアは18名。1対1で教えるのが理想的だと考えている。

(参加団体)

月曜日の午前中に活動している。ボランティアスタッフは10名。生徒は人数が多いわけではないが、レベルのばらつきがあり、組み合わせのことを考えるとスタッフが足りない。生徒数とボランティア数の均衡を図るために、教室間で生徒を移動させるとボランティア不足の問題が解決するのではないかと考えている。

(参加団体)

小学校で、月曜の夜に活動している。夜間の教室なので、昼間働いている人や留学生がほとんど。現在6名のスタッフで20名の生徒を指導していて、新たな参加希望があるとすべて断っている状況。人手不足が深刻。

(参加団体)

金曜日の午前中に活動している。日本語学習が終わった後、懇談の時間を設けている。スタッフは11名で生徒は約20名。子育てが終了した方、仕事をしていない方をスタッフとして受け入れている。

(参加団体)

土曜日の午前中に図書館で活動中。土曜日ということで、子供に教えてほしいという生徒がいる。

(参加団体)

木曜の昼間なので、日本人と決行した女性がほとんど。活動場所の地域集会所の改修工事が終了し安定して会場がとれるようになったので、これから生徒が増えるのではという期待を持って取り組んでいる。

(参加団体)

当教室は規模が小さく、スタッフ 4 人。1 人で何人もの人数を指導することもある。

(参加団体)

スタッフは不足していない。現在スタッフは 10 名で生徒が 7 名程度。生徒が 10 名を超えたことはない。生徒を集めることが課題。

(事務局)

今後、年に 2 回程度連絡会を開催する予定。